第８回懇談会で出た意見の概要

議題１　リスクコミュニケーションの普及について

〈全般について〉

○モデルリスクコミュニケーションでは必ずしも化学物質にとどまらない内容だったが、推進していくのは化学物質についてのリスクコミュニケーションとする。

〈事業者対象講座〉

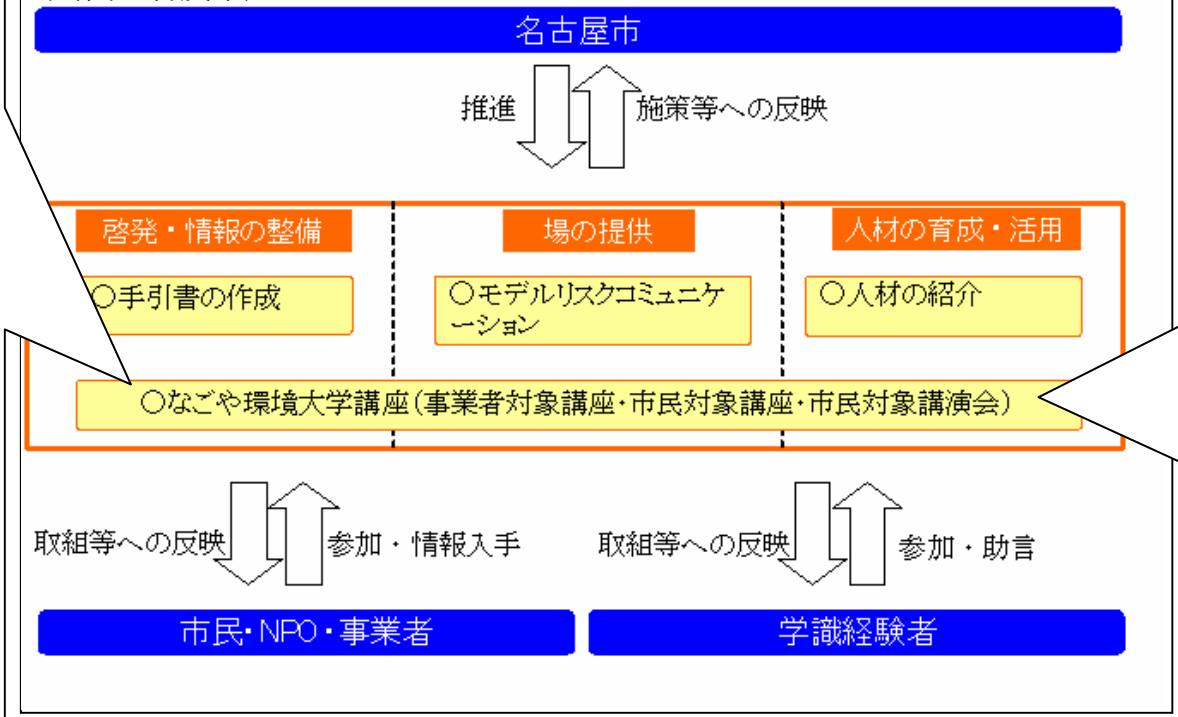
○事業者トップへの意識付けが重要であり、社内の環境対策をやり尽くしたと考えている事業者もいるので、早く、豊富にやるとよい。

○最初に、ＰＲＴＲ対象事業者全体に対して説明会をやり、そこで講座を行うことを PR すると普及していくのではないか。

○工場で働く人は、地域住民でもあり、市民でもあるので、「企業市民」という考え方を盛り込むとよい。

○事業者間にレベルの違いがあるので、ISO やエコアクション 21 などの取得状況などもアンケートしながら対象とする事業者を絞っていくのがよい。

〈当面の普及策〉



〈市民対象講座〉

○身近な化学物質（残留農薬、シックハウスの原因物質等）と製造工場から排出される化学物質の関係を説明するとよいのではないか。

⇒非点源のリスク情報は非常に少ない。

⇒非点源から排出される化学物質から話をステップアップしないと、市民をとりこむのが難しい。

〈数年後の普及策について〉

○当面の普及策で挙げられていることを数年かけて取り組み、その過程の中で、協力していただける方と相談しながら、リスクコミュニケーションを進める会の具体像を明らかにしていきたい。

議題２　手引書の作成について

〈リスクコミュニケーションのテーマ〉
○「有害物質が排出」よりも「化学物質の使用」のほうが、幅広く事業者をとりこめ、市民にも参加をよびかけやすい。

〈ファシリテーターの役割〉
○議論を整理するのではなく促進するのが役割である。
○会議の進行のルールを決めるのは参加者であり、それを促進するのが役割である。
○質問内容と異なる回答が出た場合、事実を会場全体で確認し、必要なら回答を促すのが役割である。

「-なごや発-化学物質のリスクコミュニケーションのすすめ」
〈目的〉普及啓発＋具体的マニュアル
〈対象〉事業者
〈内容〉

本編
- はじめに
- リスクコミュニケーションとは？
- リスクコミュニケーションを行うきっかけ
- 日頃からのコミュニケーションの充実
- 参加者の役割
- 参加者を決めよう
- プログラムを組み立てよう
- 説明のための資料を作ろう
- 工場見学のコースを決めよう
- 円滑なコミュニケーションのために
- プログラムを組み立てよう
- 説明のための資料を作ろう
- 工場見学のコースを決めよう
- 円滑なコミュニケーションのために
- 説明するときの留意点
- 実施後のとりまとめ
- リスクコミュニケーションの具体例

〈全般について〉
○作りきりになるおそれがある。今の手引書はハーフメイドだという認識を持って、今後の実績を事例集として挟むとよい。
○事業者が費用をかけてまでリスクコミュニケーションを行うことのメリットをもっと押し出すとよい。
　⇒ＣＳＲに努力しているということが、企業のイメージアップのメリットにつながっていく。
○事業者の方に説明するときは、
　①コンプライアンス
　②情報開示
　③リスクコミュニケーション
の ３ 段階くらいで、一歩ずつ階段を上がっていきましょうと説明するのがよい。

〈プログラムの組み立て〉
○準備は万全に、しかし、現場ではそこで起こったことを大切にし、プログラムの変更にも柔軟に対応するとよい。